

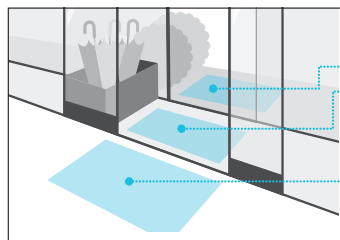
# ココフロア メンテナンスガイド

繊維状のビニルを織り込んだ独特な構造の床材です。  
長く美しくお使い頂くために定期的なメンテナンスをおすすめいたします。

## 予防

### メンテナンス

施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。泥・砂・コンクリート粉・煤煙・アスファルトなどが靴底に付着し、それが施設内の床材に転移して汚れが拡散します。このため、施設の中だけでなく駐車場・連絡通路・外構回り歩道の清掃をこまめに実施する日常清掃が大切です。



### 3段階のマット設置が汚れの防止に効果を発揮

- ①まず玄関の外に雨・風耐用型のマットを置き、外からの泥・砂などをふるい落としします。
- ②次に風除室内に雨の日の水分まで吸着するマットを敷きます。
- ③最後に施設内に汚れ・埃・水分吸着用マットを敷きます。

外から施設内まで来訪者が自然に歩いて泥・砂を落とすには、約6mの除塵スペースが必要であると言われています。なるべく広範囲にわたってマットを設置することが施設内部の床材の汚れを防ぎます。

※マットが汚れて泥・砂が飽和状態のまま放置すると逆にマットの汚れが内部に入ってきますので、マットは常に清掃しておきます。毎日のバキュームと月1回の水洗いをおすすめします。  
※大きなマットは重量があり、めくれにくいですが、バリアフリーを推進するためには初期床工事仕上げの時に、マットの厚み分床の仕上高を低くする必要があります。

## 初期

### メンテナンス (施工完了後)

土足での通行を禁止し、床面を保護して接着剤が完全に乾燥・硬化するまで十分な養生期間を取り、初回のメンテナンスを行います。ココフロアはワックスを使用できません。



### 初期メンテナンス手順

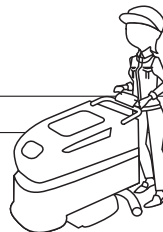
- ①乾式ダスターモップや掃除機を使用して埃やゴミを除去し、床面をきれいに掃除してください。
- ②床面に付着したヒールマークや接着剤などの汚れは、床材の表面を傷つけないようにナイロンブラシやハンドパッドで取り除き、水または洗剤を含ませたウエスなどで拭き取ってください。洗剤で取れにくい汚れはアルコールなどで除去し、その後モップなどで水拭きします。汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去して乾燥させてください(洗剤成分が残っていると汚れが付着しやすくなります)。
- ③温水(40℃程度)を使用し、自動床洗浄機で洗浄してください。柔らかいパッド、またはブラシを低圧で使用し、洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。凹凸に入り込んだ汚水は湿式掃除機(バキューム)で完全に回収し、水拭きして乾燥させてください。

※清掃機器は床材の目の方向に沿ってご使用ください。 ※自動床洗浄機が入らないコーナー部や壁際はモップやハンドパッドで清掃してください。  
※自動床洗浄機の水、洗剤の量が少ないと洗浄ムラや床材の不具合が発生する恐れがありますのでご注意ください。 ※洗剤の希釈は製造元が推奨する希釈率をご確認ください。

## 日常

### メンテナンス

日常メンテナンスのポイントは、「汚れる前に予防清掃をする」ことです。  
床面にこびり付いた汚れを取り除くには大変な時間と労力を要し、床面もきれいになりません。  
汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除くことが長期にわたる美観維持につながります。



### 日常メンテナンス手順

- ①乾式ダスターモップや掃除機で埃やゴミを取り除いてください。雨の日はエントランス付近を重点的に、固く絞ったモップでぬれている部分を拭き取ります。
- ②ヒールマークなどの落ちにくい汚れは、水または洗剤を使用し、ナイロンブラシやウエスなどで取り除いてください。洗剤でも落ちない汚れは、アルコールなどで除去してください。また洗剤やアルコールを使用した場合は、必ず水拭きをしてください。
- ③歩行頻度や汚れの状況に応じて、温水(40℃程度)または洗剤を使用し、自動床洗浄機で洗浄してください。柔らかいパッド、またはブラシを低圧で使用し、洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。凹凸に入り込んだ汚水は湿式掃除機(バキューム)で完全に回収し、水拭きして乾燥させてください。

※自動床洗浄機が入らないコーナー部や壁際はモップやハンドパッドで清掃してください。 ※ドライバフィングやバニッシングを行うと、床面の凹凸部が局部的に削られて不具合が生ずる場合があります。  
※洗剤の希釈は製造元が推奨する希釈率をご確認ください。